

# 若者を社会とつなぎ、活躍の舞台を作る

—『特定非営利活動法人 コミュニティサポートスクエア』—

コミュニティサポートスクエアは若者の自立支援を掲げて2011年3月10日に設立された。2012年7月号の特集記事では、団体が拠点としている「コミュニティカフェ・わおん」での東日本大震災被災者支援活動と、子どもの孤立を防ぐ夕食付き居場所事業について、理事長の杉浦さんの想いを交えながら紹介した。今回は、その後の団体の活動の様子を新たに取材した。

## 東日本と若者支援

この6年の間に、コミュニティサポートスクエアは活動の幅を大きく広げた。2014年から始めたのが石巻焼きそばの販売だ。近隣のイベントに出店し、石巻焼きそばを販売するのだ。東日本大震災支援活動の一環だが、石巻焼きそばというところがユニークだ。これは岐阜県内に避難してきた石巻焼きそばの関係者とのつながりから実現したもの。団体への信頼があればこそ、「石巻焼きそば」と銘打つことを了承していただけたと言える。売り上げの一部は現地への寄付となるこの焼きそば。出汁のきいた太麺という目新しさも手伝って、イベントでは安定した売り上げが期待できる。杉浦さんは、このイベント出店を若者の活躍の場と位置づけている。社会経験の乏しい若者にも、ある程度の訓練を積んだ後、食材の準備から、搬入、設営、調理、接客というイベントでの一連の作業を一人でこなしてもらう。被災者支援にもなり、また売り上げが上がるこのイベント出店は、若者のやる気にもつながりやすいという。



「夏の焼きそばは暑くて大変です」と杉浦さん



やっぱり売れると楽しいイベント出店

## 何をもって自立とするか？

焼き芋販売、チャレンジショップ、県営公園のレストハウス運営など、この6年で他にも多くの活動を続けてきたコミュニティサポートスクエア。ややもすると一貫性を持たないように見える活動だが、杉浦さんの言葉には確固たる信念が垣間見える。「社会の中のどこかで若者が活躍できる場所があるはず。公的な支援が行き届かない部分、つまりセーフティネットのすきまをどう埋めるかが大事だと考えています。セーフティネットで支援できない若者でも活躍できそうな場所をたくさん作っています」とのこと。

一般的な若者の支援と言えば「キャリア形成」「就職支援」という言葉を思い浮かべる方も多いだろう。杉浦さんも以前はそのような考え方だった。しかし同時に疑問もあった。「若者に、自分を変えて社会に合わせることを勧めて職を得てもらうことが自立支援なのだろうか？もっと他の形の若者支援もあるのではないか？」活動を続ける中で、「支援に頼りながらも、社会的なつながりの中で頑張ろうと思う状態」を自立へと、支援の定義が変わっていった。この定

義こそが、現在のコミュニティサポートスクエアの活動の源泉となっていると言える。

うまくいかないことも少なからずあった。助成金事業で地域へのお弁当宅配を始めてみたが、当然のことながら助成金は毎年獲得できるわけではない。事業を軌道に乗せるにはある程度の利益を自力で確保する必要があるが、残念ながらそれはかなわず、お弁当の宅配は終了せざるを得なかった。だが、それでも杉浦さんは様々な活動を展開することの意義を感じているという。

## 誰かの役に立てる場所

杉浦さんの考え方は、岐阜市内のある民家で形となっている。「わおん」から近くの民家の1階を借りて、子どもの学習支援・食事提供を行っている。若者で子どもに勉強を教えることができる人は勉強を教え、料理ができる人は料理を作る。また子どもと遊べる人は遊ぶ。子どもの支援になる場所でもあり、若者が活躍できる、そんな場所だ。子どもたちは多くの世代の大人たちと触れ合うことができ、若者は自分のできることが誰かの役に立つことが実感できる場でもある。

さらに面白いのが、この民家の1部屋を駄菓子屋にしたことだ。駄菓子屋を開くと、すぐ前の小学校

の子どもたちが集まるようになった。最初は興味半分で来てくれた子どもたちも、いずれは親御さんに学習支援や食事提供の取り組みを話してくれることも期待できる。駄菓子屋は地域への窓口を広く開放するという役割を担っていると言える。「駄菓子屋に来てくれた子どもの話を聞いているだけでも、その子の家庭や学校がどんな様子なのかを知ることができます」と杉浦さんは言う。駄菓子屋は地域への敷居を低くすると同時に、地域の出来事を知るアンテナのような役割なのだ。

他の支援団体との協働で支援を実施することもあるコミュニティサポートスクエアは、ここで紹介した事例以外の拠点でも活動しながら支援の輪を広げつつある。これからどんな展開をしていくのか、しっかりと見守りたい。

## 取材を終えて

杉浦さんのお話を聞いて、サラリーマン時代のことを思い出しました。経済的には不自由しなかったけど、会社以外のつながりがあまりにも希薄で疑問だらけの日々でした。自立と支援について、考えてみるいい機会になりました。



「団らん」という居場所をつくる



勉強の見守りも大きな役割



子どもの夢！魅惑の駄菓子屋さん

## Information

特定非営利活動法人 コミュニティサポートスクエア

〒502-0002 岐阜県岐阜市栗野東5丁目244番地

TEL: 058-237-1661

E-mail: sugiura@cafe-waon.com

HP: <http://cafe-waon.com/>

facebook: <https://www.facebook.com/cafewaon.jp/>